

福井大学附属国際原子力工学研究所  
個別施設計画

令和3年3月

敦賀市企画政策部ふるさと創生課

## 目次

---

1	策定の目的と位置付け .....	1
	（1）目的 .....	1
	（2）本計画の位置付け .....	1
2	計画期間と対象施設 .....	2
	（1）計画期間 .....	2
	（2）対象施設 .....	2
3	現状と課題 .....	2
4	基本的な考え方 .....	3
5	施設の状態 .....	3
6	対策内容と費用 .....	4
	（1）対策内容と実施時期 .....	4
	（2）概算費用 .....	4

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 本計画は、特に断りがない場合、令和元（2019）年度末時点のデータに基づき作成しています。</li></ul> |
|---|

# 1 策定の目的と位置付け

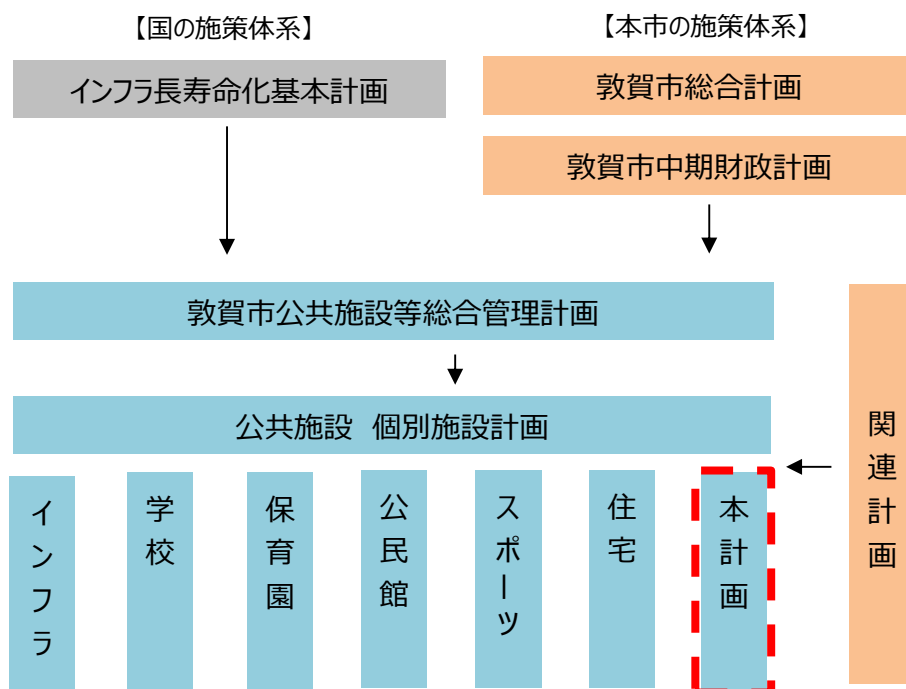
## (1) 目的

本計画は、平成29(2017)年1月に策定された敦賀市公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画として、福井大学附属国際原子力工学研究所の管理に関する具体的な対応方針を述べることを目的としています。

## (2) 本計画の位置付け

本計画は、敦賀市公共施設等総合管理計画の下位計画となります。

図表1 本計画の位置付け



## 2 計画期間と対象施設

---

### (1) 計画期間

本計画の計画期間は、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間とします。

なお、本計画は、敦賀市公共施設等総合管理計画の改訂や社会環境等の変化等を踏まえ、適時見直しを行います。

### (2) 対象施設

本計画の対象施設は、福井大学附属国際原子力工学研究所です。

図表2 対象施設概要

施設名称	地区	運営形態	延床面積 (㎡)	代表建築 年度	経過年	耐用年数	残耐用 年数
福井大学附属国際原子力工学研究所	南	直営	6,997	2011	8	47	39

## 3 現状と課題

---

福井大学附属国際原子力工学研究所は、大学生が学ぶキャンパスとして、新たに整備されたものであり、その建物は国立大学法人福井大学に市から無償貸与しています。

このため、建物の日常的な点検・維持管理、小規模修繕等は大学法人にて実施されています。

当該建物は建築から8年（平成23年建築）が経過する施設であり、建築からの経過年数も少ないため、機能に障害を与えるような要修繕箇所は無く、建物自体には特段の課題はありません。

## 4 基本的な考え方

---

福井大学附属国際原子力工学研究所は、多くの学生が学ぶキャンパスとして活用されていることから、今後も同機能を存続します。

また、建物自体は、同機能を長期に渡り安定して提供できるよう、劣化箇所の有無や兆候を早期に把握し対応する予防保全を実施することで、長寿命化を図ります。

## 5 施設の状態

---

福井大学附属国際原子力工学研究所では、使用者である大学法人によって、点検・維持管理を行っており、現状では、特段の異常は確認されていません。

なお、施設運営に支障をきたす修繕箇所はありませんが、点検等により異常が発見された場合は、市と大学法人にて、修繕費用等の負担に関する協議を行い、速やかに修繕等の措置を実施します。

## 6 対策内容と費用

### (1) 対策内容と実施時期

基本的な考え方や施設の状態を踏まえた、本計画期間（10年間）における具体的な対策内容と実施時期は次のとおりです。

図表3 対策内容と実施時期

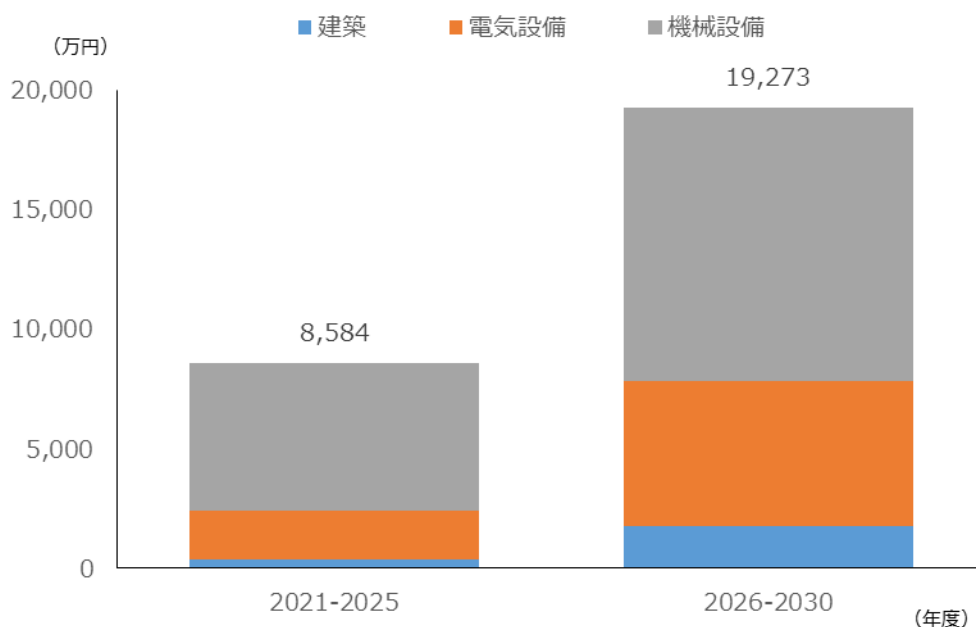
施設名称	方向性_機能	方向性_建物	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	検討段階
福井大学附属国際原子力工学研究所	存続	現状維持	現状維持										決定

機能は存続、建物は現状維持とします。長寿命化に向けた劣化診断等を行い、必要箇所の修繕・改修を行います。

### (2) 概算費用

本計画期間中に要する概算費用（維持管理費用除く）は、耐用年数を超えた使用を見据えた場合、建築、電気設備、機械設備合わせて27,857万円を見込んでいます。ただし、この費用は建築物のライフサイクルコストの㎡単価に基づく機械的な試算であり、今後の施設の状態、劣化診断等により変動します。

図表5 概算費用



※ 国土交通省官庁営繕部監修「建築物のライフサイクルコスト」の㎡単価に基づく試算。機械的な試算であり、「6 (1) 対策内容と実施時期」の内容とは連動していない。